

## 令和3年度 学校評価アンケート考察（1学期）

### [ 確かな学力 ]

- 授業に対して、生徒が最も肯定的な評価であった。楽しく学習に取り組んでいる姿勢がうかがえる。  
（理解・工夫・ICT）
- 基礎・基本的な学力の定着、家庭学習の取組については、特に教職員の評価が低い。  
→授業での学びを、家庭での学習につなげていけるように、授業改善や家庭学習の内容について、職員で検討する必要がある。
- 「授業を理解している」については、生徒と保護者・教職員に大きな開きがある。自己肯定感が高いことは長所ともなりうるが、自分自身を客観的に認知する能力を身に付けさせる必要性もある。

### [ 豊かな心 ]

- 生徒・保護者・教職員ともに、おおむね良好である。アンケートの数値からは、規律と温かさのある集団ととらえられる。
- 「悩み事を誰かに相談できていない」と答えている生徒が21名いる。保護者、教職員ともに気付くことができていないことは大きな問題である。
- 自分から言えない生徒、言動で表せない生徒の心の動きに気付くには…？複数担任といえども限界があることを意識し、仲間づくりの視点で、生徒同士のつながりを強化していく必要がある。

### [ たくましい心身 ]

- 体を動かすことについては、おおむね良好である。
- 7～8時間の睡眠時間の確保については、保護者、職員とも評価が低く、生徒の回答との間に開きが見られる。また、朝食の有無に関しても、生徒と保護者の間に差がある。
- 一部活動の取組や体力の向上についての意欲の高さを利用して、睡眠や食事といった基本的な生活習慣が体づくりにつながることを、理解させ、実践できるようにしていく必要がある。

### [ 教育環境 ]

- 生徒、保護者、教職員ともに良好である。

### [ 学校・家庭・地域の連携 ]

- 生徒、教職員の評価はおおむね良好である。
- 生徒は学校からの配付文書を渡していると答えているが、保護者と職員の評価は低い。
- 生徒の平戸に対する愛着は強い。
- 生徒が将来、平戸に住むことについては、保護者が最も消極的であった。
- 生徒、保護者の思いを知る機会をもちたい。

### [ 教職員 ]

- 不祥事根絶への意識は高く、職場の満足度はおおむね良好である。
- 働き方改革の進み具合に対する評価が低く、相互の連携や協力体制に対する評価がやや低い。
- 相互の連携や協力体制を高めていくことが、働き方改革を進める大きなカギとなる。2学期の様々な行事の取組の中で、連携や協力体制を具体的に見える形で示していく。